

静岡産業技術専門学校
令和5年度（令和4年度評価）
学校自己評価・学校関係者評価 評価報告書

1. 教育理念・教育目標

教育理念

社会人として自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

教育目標

学校教育法に基づき、工業・商業分野における専門実務教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、教育分野における知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目標とする。

2. 令和4年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

経営重点施策（骨子）

- ・第4次中期計画のKGI「目標達成指標」につながる計画初年度目標KPI「業績評価指標」の達成に向けて取り組む
- ・全校一貫したリスクマネジメント 常に意識することと、協力体制を維持すること
- ・職業教育マネジメントとファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメントの推進
- ・多様化する教育手法を取り入れ、実践し、最大限の学修効果をあげること
- ・学校教育環境の充実と、学生・教職員のマナー向上
- ・学校運営に関わるメンバー全員のスキルや能力・経験を最大限発揮できるチーム開発
- ・限られたリソースで効果的に成果を上げるDX推進とハラスメント防止対策の徹底

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

（1）教育理念・目標

評価

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		3.8
<p><u>成果と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生に教育理念・目標を周知徹底するため、当該情報を掲載した学生便覧を配布している。 ・ 入学時の全体ガイダンスでは、学則・教務規定などを教務課長から伝えている。 ・ クラス毎のガイダンスでは、デュプロマポリシーも含め説明をしている。 ・ 職業教育の特色は学校案内パンフレットに掲載されている。 ・ 学校の将来構想については、法人内専門学校6校の第4次中期計画として計画され、実行されている。 ・ 学校及び学科ごとの育成人材像については、オープンキャンパス、学校見学会等で説明を実施している。 <p>また、学生に対しては入学直後のガイダンスで行っている。</p> <p>保護者に対しては、後援会総会・授業見学会等を通じて実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業見学会は、1年生を対象に対面で行った。コロナ禍のため対象学年を1年生に絞り、1家族2名までという人数制限を設け、感染対策を行って実施した。 ・ 各学科の教育目標、育成人材像の業界ニーズを把握するため、教育課程編成委員会を年2回開催し外部意見の反映に努めている。この委員会の意見を反映し、新カリキュラムの作成を行った。 ・ 新学科「デジタル経営学科」の設置申請・6学科の新カリキュラムの改編申請を行った。 		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続して紙媒体、ホームページ掲載などを通して、学校からの情報発信を継続実施する。また、常に最新情報となるよう内部体制強化を図る。 		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で学んだこと、効率的になった事など今後の教育に活かしてほしい ・ 情報発信について WEB中心に出来ていると感じる NEWSは更新頻度も高く良好 情報発信はステークホルダーにとって、重要項目 ・ 理念などの周知方法について、コロナ禍の中苦しいと思うが、もう少し方法・手段を考案し保護者に対して周知したほうが良い ・ 業界のニーズを捉え、新学科の取り組みは評価できる ・ コロナ禍からの変化→対面比率を増やす具体的な数値目標をあげる 		
学校関係者評価 平均		3.9

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	3
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
学校自己評価 平均		3.8
<u>成果と課題</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めにすべての科目のシラバスを作成し公開している。 ・入学時と前期後期の2回に分けて、学生授業アンケート調査を継続している。 評価の良い教員が講師になり、職員向けに研修をおこなった。 ・アンケートのフィードバックについては、引き続きの課題だが、学園全体でも課題という認識をしており、教学IR部会にてフィードバック方法を検討している。 ・外部の企業・団体との連携が各科に広がっている。関連団体より研究・実習・制作のテーマをいただき、企画から制作、プレゼンテーション、納品までを実習・演習する。卒業研究における研究テーマを企業からいただくなど、より実践的な授業を展開ができる学科・グループが増えた。 ・すべての学科で該当する関連分野の企業・団体様との連携を深め、教育課程編成委員会を開催し外部委員からの意見やアイデア、最新の業界動向等を教育カリキュラムの改善に活かす取り組みを実施している。 ・本年度もキャリア教育への取り組みとして、入学時からキャリアカウンセラーや、ビジネスマナー講師など外部講師を定期的に招き、年間を通してキャリア教育への取り組みを実施した。 ・全ての教員が「関連分野における先端的な知識・技能等を修得」「教員の指導力育成」などの資質向上を目的とした研修に参加した。 		
<u>今後の改善方策</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートからもシラバスの周知が出来ていないことが例年みられるため、講師会などでもその旨伝えている ・公開情報としての科目シラバスに基づいて、成績評価や授業評価の精度を向上させる ・授業評価について収集された情報を、フィードバック・反映する体制と仕組みを定型化する ・外部のキャリアカウンセラーが実施する授業と内部教員が行う就活ゼミの内容・時期に更により合わせが必要 		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部との連携は活発にしており、より実践的な取り組みが充実している ・ シラバスに記載されている内容について、年度当初どのくらいの理解度なのか調査が必要 		
学校関係者評価 平均		3.9

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	4
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
学校自己評価 平均		3.8
<u>成果と課題</u> <ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率は例年 100%を維持している。 ・関連職内定率（履修した分野に関わる職種等への内定割合）を向上させることに重点を置いた学科の運営や就職指導を行い、学校全体として94.8%の関連職内定率を達成することができた。 ・資格取得に関しては、例年の実績相当の資格取得実績をあげることができた。 ・退学率は3.29%（目標4%以内、令和3年度実績3.47%）となり、目標を達成することができた。 		
<u>今後の改善方策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の社会的な活躍、就職後の定着状況を調査するなど把握のための施策を講じる。 ・同窓会システムをリニューアルし、名簿管理機能に加え、同窓生への情報発信や同窓生同士のつながりを促す。 		
<u>学校関係者 評価コメント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・内定率が高いことは強み・外部に積極的にアピールしたほうが良い ・就職先のホームページなどで、卒業生の活躍が事例として採用されると良い ・就職先ホームページへのリンクなども必要 ・より魅力ある学校になるため、関連職内定率の高さは魅力的である ・卒業生へのフォローがあると良い ・退学率が低いことは評価できる ・退学理由の分析と対策→対策の実施→効果の確認→実績評価のように、PDCAをまわす必要がある ・自分のやりたいことが変わる・起業したいといった学生は退学すると思うので、退学率だけではない 		
学校関係者評価 平均		3.9

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		4.0

成果と課題

- ・就職支援体制は、『就活ゼミ』を導入しており、学生1人に対して就職担当、担任、就職ゼミ担当の3方向からサポートしている。このことにより就職活動に必要な基本的就職活動リテラシーの指導・サポート体制と、専門職内定率を向上させるための学科・クラス担当からの学生への情報提供・サポート体制を明確化し、内定率、専門職内定率ともに高いレベルでの維持に成功している。
- ・学生相談窓口として、クラス担任による通常の対応と、スクールカウンセラーによる相談を毎週1回開設（月曜日）している。
- ・学生・保護者の経済的負担を軽減する措置として、高等教育の修学支援新制度に則り対象校の手続きを行っている。
- ・総務部門に学生支援機構の奨学金制度や官民の教育ローン制度等の学生・保護者に対するサポート職員を配置し、随時相談受付を行っている。
- ・保護者会組織である後援会が組織されており、学校に事務局を設置している。また学生の状況については、必要に応じて保護者との情報共有に努めている。
- ・卒業生を会員とした同窓会が組織され、学校に事務局を設置している。離職してしまう卒業生については、就職相談室にて相談及び中途採用情報などを提供している。
- ・就職担当を専任で配置し、求人開拓を含む就職支援統括を学校として行っている。
- ・課外授業としての学校行事・イベントは、新型コロナウイルス感染状況により2年間中止するものが多かったが、一部復活できた。（春遠足：富士急ハイランド・11月：スポーツフェスティバル・秋遠足：各科ごと）は安全に開催できた。このほか、各科の実習・研修などは安全に実施できるものが増えた。
- ・課外活動に対しては、適切な保険などに加入し安全に実施している。

今後の改善方策

- ・学生の健康管理について、保健室は設置しているが常任の学校医がいないため、専門的知見によるアドバイス等は行われていない。
- ・カウンセリングについては、毎週月曜日にスクールカウンセラーがカウンセリングを実施。利用機会は限られているが、学校にて緊急の事案と判断した場合は、定例のカウンセリング以外にもカウンセラーを手配し実施するようにしている。

学校関係者 評価コメント

- ・ 県内企業の就職が活性化するよう、今後御幸町ビルをサテライトオフィスとしての利用、学生と企業のマッチングなど、静岡を盛り上げる人材の輩出を期待する
- ・ 学生に対して手厚いサポート体制がなされている

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4

学校自己評価 平均

4.0

成果と課題

- ・ 講義室及び実習室は、実習に必要な室数、面積、パソコン台数や実習機器が確保され、ソフトウェアについても定期的にバージョンアップが行われている。
- ・ 毎年計画的に実習室の機器などの入替・メンテナンスを行っている。令和4年度は、CAD 実習室のパソコンを入れ替えた。
- ・ 講義室の2人掛けの机を全て一人掛けの小机に変更した。
- ・ 放課後等実習室などの貸し出しに関しては適切に行っている。
- ・ 図書については各科で必要図書を購入して教室や実習室に配備し、学生が適宜閲覧できるよう整備している。
- ・ 各講義室及び実習室における地震、火災等における避難経路は設定されており、年1回の防災訓練において避難経路確認を行い学生に周知している。

今後の改善方策

- ・ コロナの扱いが変化するが、対面授業とオンライン授業を適切に行うために、いつでもオンラインによる授業配信に切り替えられるよう設備・システムの充実を図る。

学校関係者 評価コメント

- ・ 非常時における遠隔授業の対応は、スムーズに行える体制だと評価できる
- ・ コンピュータウイルスに対する対策は、重要である
- ・ 校内環境は、清潔感があり評価できる
- ・ 避難訓練は、学生が真面目に取り組む空気感を作る必要がある
- ・ 避難には1歩1秒の意識を持ち、具体的で実現可能な避難経路の周知が必要

学校関係者評価 平均

4.0

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4.0
<p><u>成果と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門学校他校と比して、入学案内・募集要項等の内容に不足等は無く適切である。 ・ 学生募集活動に当たっては、虚偽・過剰なことの無いよう事実に基づいた情報提供と対応を実施している。教育成果についても、日々正確な情報の蓄積に努め、誤った情報が伝達されないよう厳正に対応している。 ・ コロナ禍において、オープンキャンパスの運営方法を改良し感染拡大防止策を講じながら対応した。 ・ 令和4年度の募集活動の結果、令和5年度の入学者は、入学定員215名に対し327名となった。8学科9コース全て学科定員を達成し、女子の入学生も100名となった。 		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体の定員充足と、全学科の定員充足を目指し、募集活動上の対策を講じる。 新たに開設する「デジタル経営学科」について、認知度向上に努めるとともに大学併願者の受験も視野に入れた募集活動を展開する。 ・ 教育の質を担保するため、入学者選抜における適切な評価判定を行う。 		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集でミスマッチが起きないよう、適切な広報活動の継続が必要 ・ 新学科の魅力をどのように発信していくのか期待する ・ パンフレットが分かりやすく評価できる 		
学校関係者評価 平均		4.0

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
学校自己評価 平均		4.0
<u>成果と課題</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人全体を統括する理事会・評議員会は年3回、5月、9月と2月に定期的実施され、議事録は適切に作成管理されている。 ・就業規則などの諸規程は整備されている。全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。 ・組織間の連携は、校長ミーティング及び4つの分科会（進路、教育、募集、総務）やワーキンググループ、中期計画策定委員会を中心に十分な連絡会議が持たれている。 ・避難経路確認は、入学直後に行っている。また、9月の定例の防災訓練はコロナ禍の中コロナ感染も広がっていたため9月第1週にクラス毎、避難経路確認を行った。避難経路については、非常勤講師も含め確認をした。 ・セクシャルハラスメントのみではなく広くハラスメント全般に対応するようハラスメント委員会を設け、委員名や連絡方法、またハラスメントへの対応等を明記した文書を校舎内廊下に掲示している。 ・情報セキュリティ委員を選任し、情報の持ち出しに対しては管理記録簿により管理している。 ・学園の財務情報はホームページ上に公開され常時閲覧可能である。財務分析比率は適切な数値となっている。 		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ハラスメントの通報窓口は、ハラスメント防止法で要求されていると認識している。 ハラスメント委員の掲示以外に、わかりやすい窓口の設置を検討の必要がある ・ 職員の評価・ハラスメントにも適切に対応していると評価する 		
学校関係者評価 平均		3.9

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
学校自己評価 平均		3.6
<u>成果と課題</u> <ul style="list-style-type: none">・学校施設を活用した、高校生の職業体験授業や技術体験授業、などを随時受託している。・外部団体への施設貸し出しについては、コロナ禍の為控えている。・地域貢献として、IT パスポート試験対策講座を県内大学生・一般に向けて実施した。・留学生の受入体制について留学生サポート教員を選任し、クラス担当とともに留学生のケアに努めている。		
<u>学校関係者 評価コメント</u> <ul style="list-style-type: none">・ 地域・社会貢献は学生・学校にとっても有意義な課題と考える。次年度に期待・ 留学生と他学生とのコミュニケーションは、積極的に取り組んでほしい		
学校関係者評価 平均		3.9

以上